

②一緒に服用すると、薬の効果が強まり問題を引き起こす食べ物や飲み物

●降圧薬（アムロジピン…アムロジン等の（**拮抗剤**））、てんかん薬（カルパマゼピン…テグレトール）、睡眠薬（トリアゾラム…ハルシオン）、高脂血症治療薬（アトルバスタチン…リピトール等）は、**グレープフルーツ（ジュース）**を飲むと、効果が強まります。

グレープフルーツの、フラノクマリン類という成分が、薬を代謝する酵素の働きを邪魔することにより、効果を強めてしまいます。薬の効果が上がり過ぎると、血圧が低くなり過ぎ、頭痛やめまいを引き起こします。

●市販の風邪薬や鼻炎薬などは、**アルコール**によって、効果が強まりすぎる場合があります。

風邪薬や鼻炎薬の中には中枢神経抑制作用があるものがあり、アルコールの中枢神経抑制作用と合わせて、効果が強まり、場合によっては意識障害を引き起こしてしまう可能性もあります。

解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン…カロナール）も、**アルコール**と飲み合わせが悪く、アルコールと一緒に飲むと、肝機能に障害が出る可能性があることが知られています。また、糖尿病薬（メトホルミン…メトグルコ）は、大量のアルコールとの同時摂取は注意されています。メトホルミンの副作用として、まれに乳酸アシドーシスを起こすことがあります。過度のアルコール摂取によりリスクが高くなります。



お酒の飲みすぎにより肝臓での乳酸の代謝能が低下することや、脱水状態をきたすことが危険因子となりますので、ご注意ください。

乳酸アシドーシスとは、血液中の乳酸が異常に増えて、血液がいちじるしく酸性に傾いた状態です。

症状としては、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、体がだるい、筋肉痛、呼吸が苦しいなどがみられます。

●三環系抗うつ薬（アナフラニール、トリプタノール等）、一部の抗精神病薬（クロザピン…クロザリル）、経口避妊薬（避妊用ピル…アンジュ等）、免疫抑制薬（シクロスポリン…ネオラル）、気管支拡張薬（テオフィリン…テオドル）、心臓の動きを良くする薬（ジゴシン…ジゴシン）、心不全治療薬（イバブラジン…コラン）、一部のHIV感染症治療薬（ネビラピン…ビラミューン）、一部の抗がん薬（イリノテカン…カンプトやイマチニブ…グリベックなど）、抗血栓薬（ワルファリン…ワーファリン）および類縁の抗凝固薬、スタチン系薬（シンバスタチン…リポバス）は、**セントジョーンズワート**と服用すると、効果を弱めます。

※セントジョーンズワート（セイヨウオトギリソウ）は多くの場合、軽度から中等度の抑うつの症状緩和を目的として摂取されます。健康食品、ハーブティーとして、日常で入手可能です。

逆に、一部の抗うつ薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬（パロキセチン…パキシル、セルトラリン…ジェイゾロフトなど）は、**セントジョーンズワート**と服用すると、効果を強めることがあります。

③最後に、お薬の効果には、影響はありませんが、

一部の食品と一緒に摂取すると、症状が出ることもあります。

●抗結核薬（イソニアジド…イスコチン）、抗パーキンソン病薬（セレギリン…エフピー）などは、**チラミン含有食品（チーズ、レバー、ワインなど）**を摂取すると、薬物がチラミンの分解を阻害するため、チラミン中毒となり、血圧上昇、動悸などが現れることがあります。

また、イソニアジドを服用中に、新鮮でないマグロを摂取すると、ヒスタミン中毒症状（頭痛、顔面紅潮、発疹、蕁麻疹、悪心・嘔吐、発汗、動悸、全身倦怠感など）を引き起こす可能性があります。

マグロ以外にも、カジキ、サバ、サンマなど、ヒスタミンを多く含む魚介類は、注意が必要です。

お薬の中には様々な理由から、他のお薬との飲み合わせが悪くなる場合があります。そのため、医師・歯科医師・薬剤師に、服用しているお薬を正確に伝えることが重要です。

ただし、治療上のメリットが大きい場合など、医師・歯科医師・薬剤師が個々の治療内容や患者の状態を確認しながら、使用する場合もあります。



〓ピロリ菌除去療法を受ける際に、よく受ける質問です。

治療を受ける際に、ご参考にしてください。

Q、除菌中にお酒を飲んでも良いですか？

A、ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）除菌のための治療薬を服用している間は、禁酒をおすすめします。理由は、飲酒によって薬の作用が弱くなり、除菌が成功しにくくなるという報告があるからです。

Q、除菌中にタバコを吸っても良いですか？

A、除菌療法中の喫煙の影響はないか、あってもわずかです。除菌療法中は禁煙する方がいいですが、無理に禁煙しなくても除菌率に大きな差はありません。

Q、除菌中にコーヒーを飲んでも良いですか？

A、除菌療法中は、コーヒーを飲むことは禁止されていませんが、過剰摂取は胃への負担となり、治療中の症状が悪化する可能性があります。コーヒーを飲む場合は、1日に1〜2杯程度に抑え、食後や午後など胃に負担のかかりにくい時間帯に飲むようにしましょう。